



中東情勢を受けた全国のごみ袋の対応状況

- ごみ袋のサプライヤーの太宗は、現時点で例年通りの供給量を確保しており、当面は継続的に供給が可能な見込み。
- 消費者の購入増等により、指定ごみ袋を採用する自治体によっては、市中で品薄になっているところもある。一部の自治体では、消費者の混乱を回避すべく、時限的に指定ごみ袋以外の使用を認めている。
- 必要以上の購入を控えるなど、冷静な消費行動を呼びかけている。

1. ごみ袋の供給状況

- 環境省にて、ごみ袋のサプライヤー28社（国内供給シェア9割強）からの、原料調達やごみ袋の供給状況に関する調査を継続
- 現時点で例年通りの供給量を確保し、継続的に供給可能な見込み
- 現在、例年を上回る需要（4月前年比1.1～2倍）が生じており、在庫・増産により対応

2. 各自治体の指定ごみ袋の対応状況

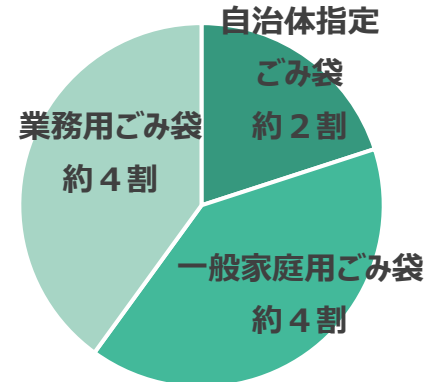
- 自治体が指定するごみ袋は、店頭で品薄になっているケースがあり、一部の自治体においては、時限的に指定ごみ袋以外のごみ袋の使用を認めるなど柔軟な対応
- 多くの自治体では、調達は例年通りできている一方で、例年を上回る需要が生じているとの情報

(指定ごみ袋以外の使用を認めている宮城県大崎地域の例)

指定ごみ袋を購入できない場合は、中身が見える市販の透明・半透明の袋（30L～45Lサイズに限る）でご家庭のごみを出すことができます。

燃やせるごみ：袋に「燃やせるごみ」と大きく書いて出してください。

(ごみ袋種類別の消費割合)



指定ごみ袋

中身が見える透明・半透明の袋

⇨収集します



中身が見えない色付きの袋

⇨収集しません



※4月20日～6月30日の時限措置

出典：包装資材シェア辞典（日本経済総合研究センター）